

理事会 会議録

日時	令和5年2月4日(土) 14時05分～16時00分
場所	めぐみ野サッカー場 A本部室
出席者	菅原英俊副会長・加藤理事長・山口副理事長 他、協議会理事 及びブロック長(含:代理)
記録者	広報理事 菅原一美

宮城県サッカースポーツ少年団協議会理事会

協議事項

- (1) 2023年度競技カレンダーについて
- (2) みやぎ生協めぐみ野杯U-12サッカーリーグ2023について
- (3) 次期役員改選について
- (4) 各部から
- (5) その他

[進行] 鈴木総務部長

【開会の挨拶】

菅原英俊副会長より

改めて、2月にはなりますが、“あけましておめでとうございます。”

昨年、めぐみ野杯U-12リーグが12月に終了し、できたことは、新しいリーグ戦の形としての一つの成果ではないかと思えます。

次年度の事業計画の策定、コロナ禍ながらも日常に向けた活動へ進んでいくこととなります。

役員改選・組織のあり方も含めて、この一年が重要な一年となります。

活発な議論がなされますようよろしくお願いします。

加藤理事長より

最近の経緯・動向についてご報告

1/9執行部会開催。1/29グラウンド調整会議の実施(斎藤競技部長出席対応)

年間活動として「めぐみ野杯U-12」及び2023年度のリーグ戦実施に向けての総括。

役員改選に向けた検討

その他、事業計画の総括と見直しについて、東北サッカー協会からも要請があり、その進め方について、確認・検討・協議が必要かと。

[協議事項へ]

(1) 2023年度競技カレンダーについて

斎藤競技部長より

事業計画(案)に沿って説明

<提案と課題>

- ・デクセリアルズ杯を2・3月へ移動できないか
- ・県Cグラウンドが工事に入るため、全てのカテゴリでグラウンドが無いという状況が生じ、4種においても、その影響が出ている。→ 新人戦を40チーム参加の形へ検討。
- ・4年生大会は、例年通り
- ・フジパンCUPは、「めぐみのサッカー場」と「松島フットボールセンター」を併用で実施。
- ・4・5・6月にリーグ戦を各ブロックで。
4年生大会では、9/17は無しの予定。10/29について、県内でのグラウンド探しが必要
全日本の決勝は、11/11・12で準決勝、決勝を実施する。(松島FBC ピッチ1)

女子の決勝も例年通り実施する（松島FBC ピッチ1）

- デクセリアルズ杯については、2月に移動するのは困難であり、11/18・19の日程で決定となっているが、県サッカー協会とも継続的に話はしている。県サッカー場の利用時間制限（利用時間制限180分/日）の課題もあり、技術部管轄のデクセリアルズ杯次第で、11/18・19の利用申請・キャンセルは入れることとなる。
- 全日本の決勝は、県サッカー場が例年実施会場ではあったが、Cグラウンド工事の影響はもとより、TV放送がないことも松島FBCを使用する理由にもなっている。
- ※東北大会は、スポ少登録していないと出場できない。
スポーツ少年団登録については、県からの連絡を待ってから対応するように。

(2) みやぎ生協めぐみ野杯U-12 サッカーリーグ 2023 について

高橋 太一氏 (WGメンバー) より

2022年リーグ戦報告。(12月に終了)

2023年度のリーグ戦について、本日の理事会の承認を経て要項作成配布へと進めたい。

要項資料に沿って説明を行う。

TOPリーグのあり方

地区リーグは、TOPが抜けた後の地区リーグとなる。

斎藤競技部長よりTOPリーグは、実力分けをしてはどうか？

◎前期・中期・後期・・・年間通してリーグ戦をしている形をとる必要がある。

TOPリーグはTOPリーグをやり集めて実施できないか。

→ 1～3月の参入リーグは、実施会場含めて実施することは厳しい。

菅原副会長 : 新人戦の結果を受けての参考は？

→ JFAユースダイレクターからできない。と回答を受けている。
4月U12リーグ実施が決定している。

加藤理事長 : TOPリーグ・リーグ戦の方式を取らなければならない理由

→ 昇降格戦を行いたい。拮抗した試合を実施させたい。

内田トレセン担当 : 選手の移籍問題が絡んでいる。

スポ少として意義を考えて全チーム対象として捉えてはいる。
指導スタッフの価値観。保護者の意識の持ち方の課題

斎藤競技部長 : リーグ戦をやる意義そのものを再考してほしい。提言できないか。

2022年度と同様に2023年度も実施してはどうか。

→ 2022年度の形を踏襲して2023年度を実施しても2024年度では昇降格戦のある環境を作りたい。{JFA:3年で実施意向}

岡田ブロック長 : 中学生のように4部まで作ることが出来ないか。

(中央) 4部以下のブロックを作ってもいいのでは？

4種チームは、単年度でしか捉えられないチーム事情がある。

斎藤競技部長 : 各チームが望んでいるリーグ戦形態なのか？改めてアンケートを取ることが出来ないか？

宮城県での実施は難しいことを示して、“No!”を言えないか。

市川ブロック長 : 2022年度も大変ではあったが、実施することは出来た。2023年度もとにかく実施してみないか。

加藤理事長・斎藤競技部長ともに

: 参入リーグは参加しなくても、4月からのリーグは参加できるように。

ということを4種として改めて申し出ることは出来ないか。

◎リーグ戦の補助金申請が2月末日まで。という事情もある。

以上のことを踏まえ、

- ・前期は、前回と同じ方式をとる
- ・後期は、再考 → “1～3月の参入リーグのあり方”をユースダイレクターに再確認

【確認事項】・・・全日本は4月からのリーグ戦に参加すれば出場できる。

今後の進め方

前期7ブロック、後期5ブロックで実施
“参入リーグのあり方”については再考を提案する

(3) 次期役員改選について

※要項表記の「4種委員会」は存在しない。

理事長＝4種委員長

従って、協会の一員として成立している。

「スポーツ少年団」としての活動意義として『協議会』が組織している。

しかしながら、協議会と4種委員会の2枚看板の整理をしてもいい時期に来ているか。

協議会があって、その後、日本サッカー協会に4種委員会が出来、県協会に4種委員会が出来、協議会との二本立てになっている。

協議会・4種委員会の予算・資金の扱い

協議会が無くなると予算がない → 事業の実施ができない

- ・協議会の予算から運営費が出ており、協会から出てはいない。

県協会主催事業は、県協会に一旦お金を入れている。

県協会の予算で実施できるか？ → 実施できない。

※従って、少年団協議会は残す。

☆次期役員については、本日は保留とし、継続事項とする。

(4) 各部から

<技術部>

伊勢技術部長より

4/2 U11 選考会について、近々連絡展開します。

次年度、宮城県サッカー協会・東北サッカー協会の報告を受けて、再度ご案内します。

<審判部>

佐久間審判部長より

3/26の審判部会議で次期審判部長を決定し、R5年度で引継ぎを行う。

女子・ユース審判の活躍の場を本会議出席者にお願いします → 4月以降各地区へ派遣開始予定

“女子とユース審判が来てもらった時には、審判3人の体制で試合を行っていいのでは？”

8人制一人審判の試合は、審判経験として有効ではない” <斎藤競技部長より>

<競技部>

ベンチ入りする指導者には、指導者資格保有が条件となってきている。資格取得講習会の開催をお願いしており、資格取得者・保有者の確保をお願いする。

加藤理事長より

事業評価表等について、配付資料に基づいて説明

(5) その他

仙南ブロックから「D級指導者講習会」への参加希望者が50名ほど出ている。

→ D級指導者講習会開催回数増要請へ

※チーム事情・諸事情でD級指導者資格すら取れない現状も存在する。

【閉会の挨拶】

山口副理事長

残り少ない年代の活動ではありますが、天候もまだまだ寒い時期が続き、また、まだ困難な環境下、活動が円滑に進んでいきますようによろしくお祈りします。

以上をもって、本日の理事会を終了とする。

16時00分閉会

2023年2月4日（土）

会議録署名人

今野純朗

記録者 菅原一美

